夕刊 磐城新聞
四月二十四日發行
日曜祭日翌日休刊

隨筆 ヒゲについて一言

一史寒士

四

總べて英雄豪傑のひげは八の字に上反り、雅客文人等は新しがりやを除くの外支那の人物に似たヒゲを垂れらせる方が多い。現在も過去も軍事關係の將官達は大低ひげを捻ぢり上げてゐる。そのヒゲの樣相が武人としての表現かも知れない荒木大將や林現陸相のひげは方にその典型とも云ふべきである

要するに子供や僻士の好々爺は、ひげといふものをわらい人物の一條件なりと無條件に考へ決め易いかも知れね。稿に書いた歴史上の豪傑偉人はそのゑらさに應じてでもひげが生えてゐるように思はれるのも無理はないが、さりとて亦雄偉な人必ずしもひげがあるとは限らない。ナポレオンを見よ、大西郷を見よ、或は大山巖を、二宮尊徳を想へ、彼等は歴史上著名の人物ではあるが、ひげ萬能時代に生れてひげを蓄へなかつたことは顏面に深く根さした處の毛根が乏しかつたと判斷すべきである。必ずしもひげないものが悲觀する程でもあるまい

妥に不思議な事は歳々年と共に頭髮は禿げ上るにも不拘、年々歳と共にひげは殖え且つ太る一方であるといふ奇現象だ。かうなると、ひげといふものを開き直つて見かへいたくなる。ソヴエート・ロシアのセマシコ國手によれば人間の壽命は大切に使へば二百年の生命を完することが出來るといふ結論に到達したが、斯くて吾人の身体を構成する組織細胞は新陳代謝や再生的に程か二百年だけ繰返し得る、即ち生きてゐられる事が可能であるといふのだ。けれども盛年期を越せば吾人の組織なり細胞なりは年次衰退することを拒否することは出來ない。之に逆行する現象は自分等のような素人の眼にけ『ヒゲ』だけがかるのである。勿論これは科學的に解決出來ないものでもないが、とに角珍らしい

虎や豹や獅子などは年ふるごとにひげは硬化して太る。猛獸の猛威はひげをまし眼を從とする。いくら獰猛な眼を瞪つても、ひげの助副ひがなければ、彈丸はあるが、さて鐵砲はないといふ具合だ。猛獸にとつてひげこそは生命であり武器である。同樣なことは一葦の蘆荻に乘つて萬里の波濤を越ゑてきたといふ達磨にも言へることだ。八方睨らみの達磨から猛々しいヒゲを剃り落したら活動俳優の惡役位ゐになつて仕舞ふ

潮聲硯靜抄帳

冬滿洲　大野 審雨

家裂く今朝は小鳥も水も凍つ
悴める身を押し押してドア開く
朝までの石炭入るゝ煖爐かな

早春　丹羽 翠雨

芹の芽のほのめく水や淺き春
早春の水ひろく日を湛えけり
早春の浪やゝあらき出船かな

森里句鈔

伊達 森里

父の一週忌

夕陽さす裏庭の柿の赤さかな
文化村コスモス瘦せて咲きにけり
野菊咲く武藏野原や小鳥鳴く
虫鳴くや海士ら運べる打揚げ藻
虫鳴くや草積んで行く月の舟

五月題詠として　五月五日締切
『摘草』『宵』『春雜詠』
（歌數隨意）

青年學校ニ就テ

無名士

三

○入學資格各科共夫々之に相當する素養ある者とせられておる、是れ青年學校に於ては單に學歴のみ[illegible]養の効果×社會生活の体驗等を包含したる資質を標準とするを適當と認め嚴格なる制限を設くることなへ他の諸學校に入學せざる男女青年の修學を容易にせられたものである、又中等學校半途退學者其他特別の事情ある者に對しては其年齢及素養に應じ各科相當年に入學することが[illegible]あるが、此[illegible]時でも自由に入學[illegible]る樣に見えるが國家は此の大切な青年期を何年も無爲に過ごして置いて形式的に後れて入學する樣な人間の在ることを立前として制定したものでは斷じてないことを附言して置く

六、轉學希望者は校長に願出すれば簡單に轉校が出來る、又出稼者等は一時滯留地に於て教育を受けることが出來る

[illegible]求り教育の機會を失はざらしめんとする趣旨であるから該當者は特に此項に注意せられたい

七、課程修了及卒業

普通科修了者には修了證本科卒業者には卒業證を授與せらる

○本科を卒業した男子に對しては其教育訓練の成果に對して在營期間短縮を認めらるのことになつたのである

その日／＼

○

近ごろ、女の美が、脚線から、だん／＼上の方に移つて、手に至つた。若い女の暮らし方もなか／＼樂でない。

4月25日

△近藤勇處刑（明治元）△南京政府外交部は日本の新對支策に對し聲明△社會評論家土田杏村逝く（昭和九）

壽。。。。。某代議士七十七。

珠雲 小野務平

清節高風六藝全
精誠七十七年還
政壇今日賴君淨
心首由來百鍊堅

小説 誰が殺したか（1）

國枝史郎作　龍造寺膽畫

第一の殺人（一）

會社員らしい二人の少壯紳士と株屋者らしいぞろりとした和服の男と、三人がその時昇降機の昇つてくるのを待つてゐた

セントラル舞踏場のある葵ビルの最上階である。午後八時が廻つたころでホールは混んでゐた

定吉は丁度手のすいたところで靴磨臺のそばにしやがみながら、さつき客が讀みすてゝ行つた夕刊をひろげて見てゐた

シャアッと昇降機の網戸が開いた。定吉は本能的に中から出て來る人々の足元へ視線を移した見覺えのあるエナメル・キットの靴がチラット眼にうつゝた

降りるのと、乘るのと摺れ違ふ時に、エナメル・キットが一人の會社員の靴を危ふく踏みつけさうになつたのを、ハッとしたやうにひらりと横へそれた

『やつたな!』

定吉は、手の方までは目なくてもおよそわかつてゐた

會社員のガマ口はエナメル・キットの靴をはいた青山の手から一緒に昇降機を降りた相棒の手にとつくに渡つてゐる筈――

『手品師見てえな早業だ』

今のを見知らぬ風をして定吉は再び夕刊の上へ眼を戻した。戻しても字が見ねなかつた。讀む氣もなかつた。うろ／＼と新聞紙の上を一杯にうろつき廻つた

『なアんだ、古賀さまぢやないか。もうお歸りですか今晩は馬鹿にお急ぎですね』

!』

青山は持前の快活な聲で昇降機を振返つた

恰度、昇降機が網戸を閉めたところだつた

『後口がなるのでね』

中から株屋なしい和服のが諸のやうな太い腹聲で答へた

『成程、例の柳橋の……んさ』

『ですな。若いもんは羨けるで……』

『いやどうも。ハッハッハッハ……』

太い笑聲が昇降機と一緒に、ぐつと下へ落て行つた

相棒の青年は先にチケットを買ひ、オーバーや帽子を預所に預けて、ホールへ入つたらしい。ホールからはトロットの演奏が流れはじめた

氣がつくと、青山が椅子にふんぞり返つて定吉の鼻先の靴臺に、エナメル・キットの兩足を差伸べてゐた

『今晩は、旦那』

會釋して、あわてゝ夕刊をおくと定吉はにつこりと愛想笑ひをした

青山は、定吉にとつての上客だつた

ホールへは毎晩のやうに來るし、そのたびに缺かさずにエナメル・キットの手入れをさせた。いつも綺麗に磨くほどのこともなかつた。それで、埃を拂つてやるくらゐのものだつた。それでも五錢のところを十錢おいて行くのが青山のきまりだつた

『たうとう擧がつちやつたね』

『え？』

『ほら、死の自動車事件だよ!』

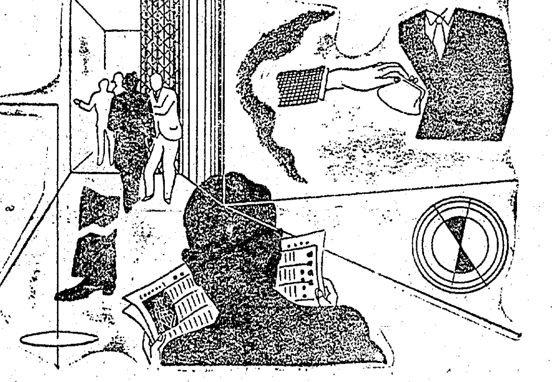
『例の、環狀道路に自動車が抛り出してあつて、中に運轉手が殺されてゐた、あれですか？ 判りましたか犯人が……』

『どこかの靴磨きだつたとさ』

『ゲッ、氣味の惡い。旦那からかひなすつちやいけませんや』

『それは冗談だがね』

青山は明るく笑ひ乍ら椅子から下りた



廣告

安齋外科醫院
平町田町
電話七五番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

前田醫院
院長 前田清美
植田町電話一二四

高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店 水戸線下館驛前（電話五五番）

支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）
常磐線關本驛前（電話八二四）
常磐線四倉驛前（電話平潟五四）
久慈濱支店（電話四八）
海上給油及油槽所―大津、平潟、小名濱、江名濱

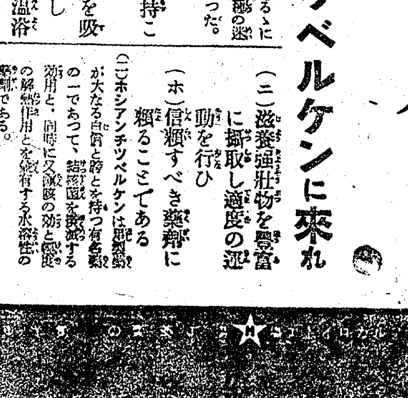
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻油、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

眞の流線美
グロ化を排してクローム直線の交叉も美しき
35年型拔群の
陸の王者 入荷
流線ダツチ
彩りも花と艶と競ふ……銀ネヅミ
御試乘下さい
素晴らしい乘心地を！
東京鐵道局公認
不二タクシー
電話三二番

結核恐るゝに足らず!!
★H
ホシはリスク
ホシアンチツベルケン

肺結核の疑ある人よ!!
迷ふことなく
ホシアンチツベルケンに來れ

（一）結核恐るべし、又敢て恐るゝに足らず、不治の病とは一種の迷妄に過ぎぬこと明瞭となつた。結核豫防の根本法則は
（イ）精神を朗かに持つことであり
（ロ）新鮮なる空氣を吸ひ、日光に浴し
（ハ）熱のない時は温浴して清潔を保ち
（ニ）滋養強壯物を豐富に攝取し適度の運動を行ひ
（ホ）信賴すべき藥劑に賴ることである
（二）ホシアンチツベルケンは[illegible]が大なる白質と酵とを持つ有名[illegible]の一であつて、結核菌を撲滅する効用と、同時に又[illegible]の効と[illegible]の解熱作用とを兼有する水溶性の藥劑である。
（實藥讀本）より



主治 效能
肺結核、肺炎カタル、肋膜炎、氣管支カタル、腐敗性氣管支炎、
喘息、咳痰、盜汗、解熱、に奏効あり
用法
大人一日三回六丸宛水ニ溶解シ食後十五分服用ス
十五歳以下七歳迄八[illegible]三分ノ一、[illegible]歳以下二歳迄
ハ六分ノ一、二歳以下十分ノ一ヲ用ユ

結核豫防に　ホシケレオ錠　¥0.37
盜汗と營養に　ホシグアヤコール錠　¥0.78
結核性解熱劑　ホシオピラミン　¥0.43

―東京・大阪 星製藥株式會社―

四月二十七日！
結核豫防デー
結核菌を撲滅しませう
星チエンストアー支部 ホシ藥舖
平町三丁目三〇（電話四二九番）

販賣店
平町
五丁目 山野邊藥局
四丁目 小野藥局
同 關內藥局
二丁目 堀藥局
同 西村屋藥局
一丁目 水野藥局
同 古鍛冶 大平屋藥舖
湯本町 阿部藥局
石畑 岩瀬屋藥舖
三函 峯藥舖
町裏 菅波藥局
三函 白石藥舖
小名濱町
米野 資屋藥舖
中島 白石藥舖
中町 小川藥舖
西町 松原正美
江名町 喜久屋藥舖
植田町 菊田屋藥局
安田屋藥局
金成五郎藥局

信念ある計劃の下に 專心經濟更生に進む
窮乏征服の旗幟も鮮明に
鹿島、夏井、好間、山田各村の意氣込み

郡下に於ける十年度經濟更生指定村は既報の如く鹿島夏井、好間、山田の四ケ村に決定したがこれら各村の疲弊に對する更生計劃は左の如く窮乏のドン底から飛び上らんとする力強い姿がうかゞはれる

◇鹿島村

本村は昭和四年の大火に逢ひ疲弊した上に不況に直面し田地總面積の約四分の一は他町村地主に歸し負債は一戸平均一千餘圓に上つた、茲に精神經濟兩面の強化更生を企圖せんとする

一、農業經營改善
二、地方施設の改善
三、生活改善
四、團體活動促進
五、自治の振興

◇夏井村

本村は純農村にして全戸數の約九割は農家である主産物たる米麥並に蔬菜の慘落は困窮の極に陷入らしめ之がため生産增殖及生活改善を期し全面的更生を圖らんとす

一、勞力の利用
二、生産增殖
三、各戸經濟更生計劃の樹立
四、販賣及金融（特に産業組合設立）
五、家計及生活の改善
六、農民精神作興

◇好間村

農村疲弊の實狀に鑑み民心の安定を策し不況を打開する爲更生計劃を樹立し擧村一致邁進せんとす

一、土地利用
二、勞力利用
三、生産增殖
四、販賣及金融改善
五、家計及生活改善
六、農民精神作興
七、農村文化の建設

◇山田村

本村現金收入の主要なる養蠶は打ち續く不況のため經濟は極度に逼迫し村財政にも缺陷を招來するに至つた、茲に計劃を樹立し難局を打開せんとす

一、農民精神の作興
二、農民文化の振興
三、生産並に販賣の統制
四、土地の多角形的利用
五、副業奬勵
六、有畜農業の奬勵

田町に先んじて 新道の美化着工
負擔額其他近く折衝開始

平驛前より四町目マルトモ脇に至る延長八十七間の新道は交通頻繁な上降雨の都度泥濘甚しく從來屢々地元住民からこれが鋪裝方の陳情あつたので町では工費二千九百圓（地元半額負擔）で鋪裝する事になり目下測量其他準備を進めてゐるが昨報の常磐銀行－驛前間の鋪裝が着工されゝば驛前主要路二線が閉鎖されるのでこれより先んじて來る六月早々着工する事になり近く地元と寄附金其他に關し交渉を進める事になつたと

五年間に千六百餘名
郡下の傳染病發生統計

平署管內に於ける既報五ケ年間の傳染病發生狀況は

	五年	六	七	八	九
チフス	一五五	一四〇	一二七	一六一	一二〇
パラチフス	九	七	二九	一九	五一
ヂフテリー	二二	一五二	八九	七八	一二六
猩紅熱	七	六	六	八	一〇
赤痢	四八	四四	四六	五〇	四三
流腦	六	ー	ー	一	ー
計	二四七	三五九	二九七	三一七	三四〇

で合計千六百六十名の多きに上り中チフスが七百三名で依然最多を占めて居る、尙去る七年からは前二ケ年に比し幾分減少したがそれ以降は漸次增加の一路を辿つてゐると云ふ憂慮すべき狀態に關し同署では町村役場との連絡を圖り防毒並早期發見等極力これが防止に努めてゐるが、今二十四日開かれた衞生主任會にも數字的に表示した印刷物を各主任に配布懇談する處あつた

一時より第二讀み法寶に行ふと、なほその第一回は來月四日で新聞員の受講を歡迎すると

第一校遠足

平第一校では明二十五日遠足運動會を催すが目的地左の如し

尋一－飯野村白士八幡神社、尋二－夏井村專稱寺、尋三－同大國魂神社、尋四－鹿島村鹿島神社、尋五－豊間村沼內辨財天、尋六－同鹽屋崎燈台見學、高一－江名濱、高二－小名濱

・・・・自動車協會新役員・・・・ 植田署管內自動車協議會では此程左の如く役員の改選を行つた

（支部長）菅野署長（副支部長）青天目信次郎、渡邊重三郎

逝く春を池の誘惑
白晝の入水に花見客吃驚
喝を癒やす異狀者と判る

昨二十三日正午頃松ケ岡公園の瓢箪池に久留米絣を着て佇んでゐた一見二十四、五才の青年が突然素つ裸になつて池に飛び込み花見客が驚き騷ぐ中を中央の噴水に泳ぎつき迸り出る水を呑み興がつてゐるのを漸くだまして一應役場吏員派出所に保護を加へた上平署に突き出した、此男は大浦村大字大森猪狩秀男（三五）と云ふ異狀者で昨年暮も湯本町で半鐘を外して騷がした事あり家人が監視中昨今の陽氣につい浮かれ出したものと判明したが『何だかうまさうな水だから呑んで見たんだわい』と嘯りケロリとして署員を煙に捲いてゐた四倉署に手配家人に渡した

團体お花見 合計三百組
個人と併せ約廿萬

前記役場派出所で去る十三日から二十三日迄取扱つた觀櫻團（二十名以上のもの）は二百九十八組で此の人員一萬二千三百名の多きに上り花見る人を合せれば此の約二十倍と見て二十數萬に上つたものと云はれてゐる

南柯の甘夢－花は過ぐ
今は無心に散るさくら
松ケ岡公園惜春賦

春風もきのふのやうに吹き捲くるゞ悄らしい永い〳〵と云つてゐた今年の花も午前中の繽紛たる花吹雪に今年の花も愈々終幕となつた、破れた雪洞や泥にまみれて散つけてゐる折詰の紙片にも一入歡樂後の哀愁がそゝられる、花に拍車を加へた田町美妓連の手踊りも昨日貴限りで幕を閉ぢ、電燈も今晩限りだと云ふ、役場の派出所も豫定よりも幾分早目に今日きりで今更逝く春の慌しさが侘びしまいる

併合調査會
來卅日開催協議

平町では過般隣接合併五ケ村に對し併合の交渉をなしたが更に今後の方針を協議するため來る卅日午前九時から會議室で調査委員會を開く

平女青年團 生花講習會

平女子青年團では中絶してゐた生花講習會を來月より毎週土曜午後

郷土の史的時事解說（二）
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に內境安置五佛像國寶各指定に就て（七）

勿來生

其の頃、本家を淩駕して劃外海道一部の彈正又は檢斷職を掌つた岩崎の本主と思ふのに

岩崎彈正左衞門尉隆衡（元亨四年十二月七日、鎌倉執權連署狀）（飯野文書）（同名は同文書の正中元年十二月廿二日、好嶋山相論下知狀にも見られ、瀧布岩城系圖に屢出する岩城本家嗣隆行（又は成衡とも）の二子隆衡（平とも）とは別人で既載の東鑑の文、及び八節にも述べたとほり、其の頃、劉外海道平氏の勢力は、此の岩崎が占めてゐたであらう。（後出の太平記抄を合考）

斯かる者があつた序いでに、時代は北條末期の外であるが、右の隆衡と同人に就いて一言しておく。南北二朝の大動亂に於ける岩城氏の當主、嗣主等は朝義、常朝であるにかゝはらず、此れに活躍したのは、現存の史料に見られない。岩城全族は殆んご賊黨であつたのは言ふまでもないが、何かの理由で當家は其の頃尙は度々興亡があり反つて彼れの支族、分家が隆盛し、特に岩崎が最も勝れてゐた

例へば前揭と同人であるに拘はらず、崎を城に、衡を胤に夫々誤傳したのは、次の如くである

檢斷岩城彈正左衞門尉隆胤（建武元年三月廿八日北畠顯家御教書）（鯨岡文書）

當時の武士、土豪が左右の左衞門尉なる職名を賜ふのはさまで六ケ敷くないが、彈正、檢斷、などいふのは現今の地方警察署の長官であるから、相當の威望がないと、是れに任ずることが叶はなかつた。但し彈正は上代からの遺襲で、檢斷は尊氏の室町幕制からである。此の時分に檢斷として海道に重用したのは、飯野八幡神主を兼ねた伊賀盛光であり、隆衡と共に最初より賊黨の雄なる者であつた。岩城の親類で、或る時には本家に代つたのが、白土てふ姓號の中から叢出した上小川村諏訪神社文書の寫傳に見られる

優良赤ちやんに 知事及町長賞
大會は大体來月四日頃

平町では既報の如く來月二日からの全國兒童愛護週間に際し第一回赤ちやん大會を催すべく今二十四日午後一時から關係者と協議したが大体期日は來月四日（場所未定）で參加資格は一昨年四月三十日から昨年十月三十一日迄生れの者で審査の上優良のものには知事並に町長賞を授與する筈

目に餘る亂行に 親權喪失請求訴訟
若後家の情慾生活斷面

『三十代の後家は通せぬ』の譬喩を如實に年增女の情慾生活斷面――

平窪村大字下平窪字鍛冶內三八鈴木竹次郎三女花代（三四）は大正十年十二月鹿島村大字下矢田前原五一（明治四十年來在米）園部嘉茂の準養子にして同人の季弟に當る淸に嫁ぎ佳子（三）を頭に一男三女を擧げたが淸が三四年來病床に臥す身となつて以來病夫の看護幼兒の育英は姑のマサに當らせ己は神佛の祈願に事よせ度々外出しては平町南町西山某と私通して遂に懷妊した處へ同人も肋膜炎に腎臟炎を併發して胎兒を摘出せねばならなかつたので病夫に同意を求めたが此頃既に妻の不身持を知つた親戚一同はその不貞を責め離緣話迄持ち上つたが、花代の實父竹次郎からの陳謝と以後を誓ひ親戚一同涙を呑んで之を宥したが、淸は同八年八月死亡、氣苦勞に痩せた母マサも相次いで翌九年六月他界し、村人の噂が稍々下火になつた同年十月中旬から花代は再び妻子すらある同村四家某と私通を續け湯本、平、小名濱等から郡外に狂ひ歩き、最近では男を我家に引入れ情痴にたゞれた毎夜を送り、何人をも憚らぬ痴態の振舞ひに遂に舅の姉同村下矢山字細作園部フキ（五八）同大字御代字榎作四七鈴木トモエ（四九）同妹夏井村大字菅波字新屋敷六一渡邊あい（三一）の三名は平町市井辯護士を代理人として花代を相手とり平支部に親權喪失請求の訴を起すに至つた

親の金千圓を拐帯 若妻と生家を出奔
大阪から平署へ搜索願

大阪府堺市北向陽町靴ト製造業北野善治長男善一（三五）は去る二月頃より神經衰弱にかゝり靜養中去月十三日午後三時頃父の一千圓在中手提トランクを持ち出し昨年十一月中迎へた妻チエ（二四）と共に行方を晦したが東京方面から濱通りに逃亡した形跡あるので今二十四日善治から平署に搜索願に糾合協議すると

・・・・壯丁虎眼檢診・・・・ 平町では來二十八日午後一時から會議室で今年度壯丁百七十名のトラホーム檢診を行ふ

・・・・兵事々務役員會・・・・ 平署管內兵事事務研究會役員會は二十四日午前十一時より同會議室に開き兵事主任會開催に關し協議

・・・・木炭指導員會議・・・・ 濱三郡木炭同業組合指導員會議は明二十五日午前十時から平團体事務所に開き事業上の打合せを行ふ

・・・・正直なかつ子さん・・・・ 平町正月町居住第二小學校生徒一色カツ子さんが今朝登校の途中四丁目道路に女用財布が轉がつてゐるので中を調べると十圓と五圓紙幣合計十五圓が入つてゐるので直に驛前派出所に屆け出た

物騷な遺し物
第三の西卷女訓導が登校途中拳銃を拾得

平第三小學校訓導西卷キヨミさんが今二十四日午前八時頃登校の途中同町杉中地內縣道に於て拳銃（番號二三、〇三六號）一挺を拾得直に平署に屆け出たが物騷な遺失物として直に縣保安課に報告する一方遺失者を調査中である

米廉賣排擊
町內商人が協議

平町米穀商組合では最近四倉町より出張と稱し新川町邊に市價三十錢、三十一錢に對し上白米二十六錢五厘二十八錢五厘位に廉賣する者あり町內商人の大脅威なので今二十四日夜市內某處

・・・・水道料未納整理・・・・ 平町では來月六日八、九兩年度水道料未納者九十三名の差押物件の公賣を執行する

再た大野村（玉山）で三棟五戸を全燒
原因失火？損害未詳

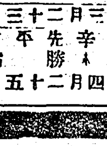
昨廿三日午後九時五十分頃大野村大字玉山字牧ノ下三五、長谷川留吉方より發火三棟五戸全燒、同十時四十分鎭火した、原因失火らしく損害目下四倉署で取調べ中

・・・・赤社愛婦總會・・・・ 日本赤十字社並に愛國婦人會總會は五月八日東京市赤坂區檜町憲法記念館で開くので會員中出席者は町役場へ申出られたいと

二十五日（小名濱測候所調査）

日出 四、五三 月出 ー
日沒 六、一七 月沒前 九、三九
滿潮前 六、二〇 干潮前 〇、五五
滿潮後 一〇、三五 干潮後 二、三五

新四月二十五日 木曜
舊三月二十三日 辛卯 先勝 平 井宿



就易の總論
東京市本郷區湯島四ノ一目五番地 島島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 己が力を量らず前にのみ進む時は失敗す▲二黑の人 一日の平安を祈り餘事に手を出さぬが吉し▲三碧の人 運氣盛んに見えても就益には祿薄し金談凶▲四綠の人 一苦勞去りたりとて氣を油斷あるべからず▲五黃の人 是まで惱みに惱み居たる事も今日は通達す▲六白の人 企て事は皆一時に成る吉日飲食には注意▲七赤の人 運氣盛んにして思はざる幸福も入來るべし▲八白の人 勞多く功少きも後日の爲と勵むべき事▲九紫の人 信義を守り輕率を愼しむ時は何事も成就す

廣告

吉田眼科病院

平町六丁目 木村外科醫院 電話 三〇九番

明日よりいよ〳〵博覽會の最終的奉仕
…市民デー…
博覽會と演藝館共通十錢
博覽會は諸費用を省き之を以て閉會式に替へます、演藝館は斬新なる大魔術を加へて御覽に入れます。

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 福島縣平町 山崎合名會社 電話（營業部一〇番）（本店二七番）

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は〆の生命なり
貸切の御用命は是非〳〵 電話 二一七番へ
親切叮嚀、流線形 安全第一、最優良車設備 サーヴィスモットー
貨物一般 平町四丁目 鈴木自動車部

母アサ儀永々病氣の處藥石効なく二十二日午前一時二十分死去仕り候間此段謹告仕り候
追而葬儀は二十五日午後一時自宅出棺性源寺に於て相營可申候
昭和十年四月二十三日
平町長橋町 小野園次郎
外親戚一同